

緊急シンポジウム

「 聾学校・聴覚支援学校はどこへ行く？ ～ろう・難聴児の育ちの場を守るために 」

近年のろう・難聴教育においては、インクルーシブ教育の広がり、聾学校の在籍児童・生徒数の激減、手話教育をめぐる北海道・札幌聾学校の訴訟など今日的な課題が浮き彫りになっています。なかでも「聾学校と他の支援学校との併置・統合」あるいは「聾学校が支援学校の聴覚支援部門として再編」される状況がいくつかの府県で見られています。そこでは、当事者団体たる聾学校同窓会、聴覚障害者協会との事前相談やヒヤリングもないまま検討作業が進められている地域もあり、到底、見過ごすことのできない問題です。

言語としての手話とろう者の文化を育み、社会に寄与するろう者を輩出している日本の聾学校は、その存立がまさに大きな危機に直面しています。そこで、未来志向的なろう・難聴教育へと押し上げるために、ろう者当事者、聾学校現場の教員、研究者が学びあう緊急シンポジウムを開催いたします。ふるってご参加ください。

「 聾学校・聴覚支援学校はどこへ行く？ ～ろう児・難聴児の育ちと学びの場を守るために 」

日 時： 2026 年 **1 月 31 日(土)** 午後 1 時 30 分～4 時 30 分

会 場： **大阪ろう就労支援センター**：メトロ谷町線「谷町 4 丁目」 4 番出口 徒歩 3 分

参加資格： 聾学校・聴覚支援学校教員（OB 含む）、ろう者・難聴者、手話関係者

参加費 1,000 円（当日）👉 遠方の方にはオンライン参加もできます！

参加申込： **8toka8@gmail.com**（対面か、オンラインかを明記してください）

進 行： コーディネーター 前田 浩 大阪ろう就労支援センター長

シンポジスト

中瀬 浩一 同志社大学教授（長らく聾学校教員を務め、全国の聾学校の状況をふまえ、聾教育の再建への提言をしていただく）

中島 武史 兵庫教育大学准教授（大阪の 2 校の聴覚支援学校で教鞭をとり、兵庫の聴覚支援学校とコンタクトを持つ。コーダ。ろう者の文化・教育に関してお話いただく）

磯野 孝 交渉中。大阪聴力障害者協会副会長（聴覚障害団体当事者の立場から、ろう児の学習権、ろうコミュニティの歴史的役割について提言していただく）

松本 大輔 全国聴覚障害教職員協議会会長（聴覚障害教職員当事者の立場から、ろう学校の現状と課題について発言していただく）

※ 先着順にて、対面参加 60 名様、オンライン参加 30 名様にて締め切らせていただきます。